

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成30年 5月 31日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 牧草 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響します。生育ステージを観察し、適期収穫を行いましょう。
- ◆ 飼料用トウモロコシ 雑草防除のため土壌処理、生育期処理を行い、収量確保・サイレージの品質向上を目指しましょう。

牧草

1 生育状況

4月中旬以降、平均気温が平年より高く推移し、日照時間も多めに推移したことにより、1番草生育は概ね平年並～良好となっています。

収穫準備を始め、適期収穫に努めましょう。

2 収穫

(1) 1番草の収穫適期

図はオーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。

生育が進むにつれ収量は増加しますが、消化率、可消化養分総量(TDN)、蛋白質含量(CP)は減少します。

収量と栄養価のバランスを考慮して、『出穂始めから出穂期』に収穫を行いましょう。目安は1m四方で出穂本数が2～3本(出穂始め)から40～50%(出穂期)です。

(2) 刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、2番草以降の再生力と収量を決定する重要な要因です。

低刈りは再生力が悪くなり、高刈りは収量減少につながります。地際から10cm以上(大体握りこぶし1個分の高さを目安)に刈取りを行います。

(3) サイレージ調製

原料草の予乾が不十分だと、養分の流出や不良発酵の原因になります。調製方法ごとの目安として、ロールバールサイレージで水分50～60%、タワーサイロやバンカーサイロ等で水分65～70%となるよう、予乾を行いましょう。

土壌の混入は不良発酵の原因となりますので、トラクターのスピードを落とし、圃場の凹凸に注意しながら作業をしましょう。

ロールバールサイレージに調製する場合、ロール成形後密封までに時間が大幅に経過すると、品質低下につながります。ロール成形後は必ず当日中に密封作業を行いましょう。

(4) 乾草調製

良質な乾草を調製するためには、水分を20%以下に落とすことが大切です。水分がそれより高いと、カビの発生による品質の低下だけでなく、発熱、自然発火にもつながります。晴天が続かない場合には、無理に乾草調製をねらわず、サイレージ調製に切り替える等臨機応変に対応しましょう。

3 オーチャードグラスとチモシーの特性

(1) オーチャードグラスは基本的に年3回刈取ります。利用回数が少なく、刈取り間隔が長くなると消失する個体が増えたり、株化が促進され裸地が多くなります。刈取り間隔は40～50日が目安です。

(2) チモシーは1番草時に早刈りすると再生が悪くなります。これは1番草の出穂茎が生育しないと2番草となる新しい分げつが生長しない特性によるためです。よって、刈取り時期はオーチャードグラ

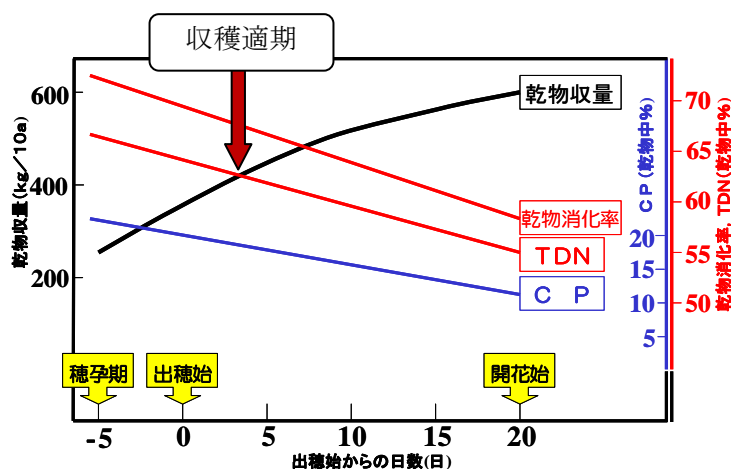


図 1番草収量・栄養価の時的推移(オーチャードグラス)

スよりも遅い出穂期以降とします。また、再生スピードが遅いので刈取り間隔は50～60日を目安とします。

4 収穫後の追肥

2番草の生育を促進するため、刈取り後に追肥を行います。施肥量の目安は、10a当たり成分で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。

オーチャードグラスは刈取り後すぐに再生が始まるので、刈取り後すみやかに追肥をおこない、再生を促進させます。一方、チモシーの場合は再生速度がオーチャードグラスよりも緩やかなので、1番草刈取り後7～10日後を目安に追肥をします。

チモシーはオーチャードと異なり、1番草刈取り後に新しい分げつが発生し、それが翌年の1番草まで維持され収量に影響します。よって1番草刈取り後に施肥し、新しい分げつ発生を促進する必要があります。



チモシー密度維持は1番草刈取り後の施肥がポイント！！

飼料用とうもろこし

1 生育状況

5月上旬の日平均気温は、平年と比較して高めに推移しています。低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もありましたが、中旬～下旬にかけて播種作業が各地域で進んでいます。

2 雑草防除

雑草の繁茂を防ぐには、早期の発見と防除が不可欠ですので、播種後はこまめに圃場を観察しましょう。土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理が必要です。雑草の種類によって、効果が期待できる除草剤が異なるので、適切な除草剤を選択しましょう。除草剤によって使用方法（時期、回数、留意事項等）が異なるので必ず確認してください。

3 虫害の特徴と対策

飼料用とうもろこしは、圃場の観察不足からトラブル発見が遅れやすい作物です。虫害は欠株を招き被害に比例して減収が大きくなりますので、早期発見に努め被害の拡大を防ぎましょう。

(1) ハリガネムシ

針金状の細い幼虫が種子や幼苗に侵入して食害し、不発芽や幼苗の枯死を招きます。被害株の周辺土中に幼虫を確認できます。牧草地からの転換初年目は大きな被害が出やすくなるのでとくに注意します。

播種後に被害が確認された場合は、その程度に応じて早生品種等の追播を検討します。播種がこれからの場合は、種子に防除薬剤を塗布します。

(2) ネキリムシ

6～7月頃、幼虫が幼苗の地際部を切断して食害し、株を移動し被害を拡大します。被害株の周辺土中に幼虫を確認できます。

成虫は雑草（アカザ類、タデ類）を好んで産卵するため圃場内外の除草を徹底するとともに、被害が確認されたら、その程度を見計らい防除剤をすみやかに散布します。



被害株の土中にいた幼虫

ハリガネムシのサイン？
欠株や障害株が多い被害圃場



ネキリムシにより地際で切断された株

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]

[~6月15日]

農作業 ころのゆとりで 事故防止

次号は6月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。